

令和2年度  
自己点検評価書

東海学院大学大学院



令和2年度東海学院大学大学院人間関係学研究科  
自己点検・評価報告書

1. 教育成果
2. 研究成果
3. 就職状況と資格取得
4. 学生生活支援
5. 学生募集・入学試験
6. 地域貢献
7. 心理臨床センター活動
8. コロナ対策
9. 人間関係学研究科会議事録
10. 各種調査・届出資料
11. その他

## 1. 教育成果

### 1) 修士論文

令和2年度の修士論文に取り組んだ学生は6名であり、修士論文作成のスケジュールに則り作業が進められたが、コロナ感染の拡大による非常事態宣言下のガイダンスと5月の2年次学生を対象とした構想発表会は書面開催となった。研究活動が滞る状況も見られたが、無事全員が論文を提出した。東海学院大学学位規則に則り、修士（心理学）の学位論文審査および最終試験を行なった結果、以下の6名全員が合格と認められた。

表1 令和2年度修士論文審査結果

番号	題目	判定
1	自閉症スペクトラム障害の青年をもつ親の心理的体験過程に関する研究	合格
2	大学生を対象とした能動的音楽療法の試み	合格
3	大学生の過去のいじめ被害体験が精神的健康と心的外傷後成長に及ぼす影響—レジリエンスとの関連—	合格
4	社交不安傾向と友人関係—SNS利用との関連—	合格
5	家族以外へのカミングアウトへ至る決断のプロセス-LGBT当事者を対象とした質的研究-	合格
6	両親の共感性、夫婦関係および養育態度が中学生の共感性に与える影響	合格

### 2) 授業アンケート結果

大学院生に対する教授方法のさらなる改善のために、前期と後期にそれぞれ授業アンケートを実施している。アンケートは、匿名で実施され、回答者（大学院生）の講義への出席状況、該当科目の予習・復習・レポート作成に費やした時間、講義に対する学生の意欲、講義環境への教員の配慮などを5段階で評定するものに加え、自由記述欄を設けて意見や提案を記入できる構成になっている。

授業アンケートは基本的に授業の第10週までに実施され、アンケート結果は担当教員に即座にフィードバックされる。そのため、教員はアンケート実施の翌週から結果に基づいた授業改善を行うことができる。

以上のように、授業アンケートを用いた教授方法の改善に努めている。

大学院においては令和元年度より、各授業において自己評価による到達度評価調査を行

っている。昨年度は通年科目の課題研究Ⅰ、Ⅱと臨床心理実習（心理実践実習Ⅱ）について調査が行われ、その結果が各教員に開示され、各授業の実施の際に考慮することとなった。

## 2. 研究成果

大学院人間関係学研究科の研究活動においては、上記のように修士論文研究に6名の2年次院生が臨床心理学的な課題研究に取り組んだ。研究テーマとしては、発達障害の親の心理、能動的音楽療法、いじめ体験の影響、社交不安傾向とSNS、LGB当事者のカミングアウト、親と中学生の共感性という多様なもので、全員が合格判定となった。なお、平成元年度の修士論文を基に刊行された論文は1編であった。これまでの修士論文のレベルは維持できたと評価できるが、なお今後、学会発表等の研究活動の活性化を促進したい。

また、大学院担当教員の研究活動としては、発表論文数17編（紀要等も含む）、学会発表17件、科研費等外部研究費の獲得者4件であった。コロナ禍の影響で国内外の学会等は開催が困難であり（ほとんどがリモート開催）、例年よりも低調な活動状況であった。今年度も状況の改善は未知数であるが、多くの学会や研修会はリモート開催が予定されている。リモート学会等の開催様式にも教員は慣れてきたことから、むしろ開催地への移動や宿泊が必要ないという経済性や利便性を生かした研究活動の活性化を望みたい。

## 3. 就職状況と資格取得

### 1) 就職状況

令和2年度修了生の就職状況

令和2年度は、修了生6名全員の就職が決定した。分野としては、医療、教育・福祉となっている。以下に令和2年度の修了生の就職先を示す。

#### 【就職先】

岐阜県庁、医療法人大野はぐくみクリニック、かわしまファミリークリニック、豊川市放課後等デイサービス Jump、放課後等デイサービスラルジュ、株式会社イープレイス COLORS 各務原校

### 2) 大学院生への就職支援体制

大学院生の就職支援のために、以下①～③を実施している。

#### ①就職ガイダンスの実施

修士1年生を対象に学生就職課による就職ガイダンスを実施している。ガイダンスでは、求人検索ナビの活用方法、履歴書作成のポイント、就職活動や面接試験時の心得など、就職活動において必要な知識や心得を提供できるサポート体制を整えている。

#### ②就職活動状況アンケートの実施

修士2年生を対象に8月頃に就職活動状況を把握するアンケートを実施している。アンケート結果を教員間で共有し、大学院生、各個人にあったサポートへと活かせるようにし

ている。

### ③メーリングリストを用いた求人情報の提供

学生就職課を通じて得られる求人情報を、メーリングリストを通じて大学院生に共有するようにしている。このメーリングリストには、修士1年生から登録し、早い段階から求人内容に触れる機会を持てるようにしている。また、このメーリングリストには、本校の修了生も任意で登録しており、修了生から直接、求人情報を得られる体制も整えている。

### 3) 資格取得状況

令和2年度の公認心理師と臨床心理士の合格率を表〇に示す。国家資格の公認心理師は83.3%、民間資格の臨床心理士は57.1%であった。公認心理師は全国平均よりも上であったが、臨床心理士は下回り満足できるものではなかった。

例年同様、昨年度も月に1度、ボランティアの教員が受験対策講座を実施し、大学院修了生の支援を行ってきた。今年度は、国家試験対策室を開設し、受験資料等を整備して計画的に支援を進めたいと考えている。

表2 令和2年度公認心理師と臨床心理士試験合格人数

資格	本学			全国
	受験者数	合格者数	合格率	合格率
公認心理師	6	5	83.3%	53.4%
臨床心理士	7	4	57.1%	62.7%

### 4. 学生生活支援

#### 1) 奨学金等の支援

日本学生支援機構（JASSO）の大学院で学ぶ人を対象とした奨学金には、利子の付かない第一種奨学金と、利子の付く第二種奨学金がある。令和2年度は修士2年で4名、修士1年で3名が受けた。

#### 2) 大学院の経済的支援の明示

令和元年9月26日付文部科学省高等教育局長より「学校教育法施行規則及び大学院設置基準の一部を改正する省令の施行について」の通知があり、「学校教育法施行規則及び大学院設置基準の一部を改正する省令」（令和元年文部科学省令第13号）が令和元年8月30日に公布され、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）の改正については令和元年8月30日からの施行に伴い、大学院における経済的負担の軽減のための措置等に関する情報の明示が努力義務化されましたことに対応し、下記の内容を大学ホームページ及び2021年度入学試験要項に掲載した。

入学金、授業料の免除および徴収猶予

学業が優秀と認められた者で、下記事由により就学が困難な学生に対し、入学金、授業料の免除若しくは徴収猶予を行う。

【事由】学資を主として負担している者が死亡、または、本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより学資の納付が著しく困難な場合

入学金、授業料の免除および徴収猶予については、「東海学院大学短期大学部及び東海学院大学の入学金免除及び徴収猶予規則」「東海学院大学短期大学部及び東海学院大学の授業料免除及び徴収猶予規則」に則り行う。

### 3) TA（ティーチング・アシスタント）の優先採用による金銭支援

修士課程の学生で、将来、心理職に従事する意欲と優れた能力を持つ学生に対し、心理職のトレーニングの機会を提供するため、TAに優先採用する。令和2年度のTAは1名を採用した。

### 4) 大学院生の学生生活に関する調査

令和2年9月24日から30日にかけて、大学院生を対象として学生生活に関する調査を実施した。質問は53項目で、結果は別添のとおりまとめた。なお、主な所見は以下のとおりであった。

38.5%の学生が不安や悩みを抱えている。学生相談室は相談しやすい身近な支援として重要であり、月～金曜日の9時～17時を開室し予約も可能としている。コロナ禍における差異があるかどうかは、不安や悩みの有無は前年度と同率、コロナ感染症による心身の不調を元とした悩みはコメントにも挙がっていないことを確認した。しかし、今後の収束状況によっては、学修の進み具合や対応等でイライラが募るなど、心身の不調にも関わる可能性が考えられる。社会変化に伴い心身の健康問題は複雑かつ多様化している中で、今後の社会的不安感等も鑑みながら、日々の学生生活を有意義に送ることができるよう、学生相談室としては、担任・保健室・各委員会等、他の関係者とも連携しながら、充実を図る。

大学院では、誰に相談していいかわからない学生が7.7%存在する。日々の生活の悩みが積み重なり、重層化・複雑化しないためにも、ガイダンスや掲示板を活用し、早期支援ができるように努める。また、「相談はしたいが相談できていない」状況ではないかと考えると、気軽に相談できる窓口の情報提供をするなど、相談へとつなげていく方法を考える必要がある。

悩みの解消方法として「解決する方法がない」と回答している学生が存在しており、来室しやすいようにドアを少し開けて待機するなどの工夫をしている。また、「教員に相談窓口を相談する」学生も存在するため、担任・保健室・障害学生支援委員会等と連携・協働を行っている。

資格取得を目指しているが、どう生かすか、どんな環境で生かすかを考えると、前へ進めない学生が多い。学生は進路選択に際して求める情報は明確であることがわかった。掲

示板の活用、求人検索 NAVI のメール配信機能を使って、情報提供の充実をはかる。担任教員と連携して学生面談や個別相談を大切に実施する。「就職登録カード」の活用を促進させるなど、各学生の希望や条件に対して、柔軟に応じる体制を整える。また、資格取得を始めとして将来へのキャリアビジョンを持ちたい希望は多いので、先輩の経験、専門職に就いて活躍される方々、今後の学生生活に有効な活動の情報提供やアドバイスを学生就職委員会・学生就職課でまとめていきたい。

## 5. 学生募集・入学試験

### 学生募集

大学院の受験者集を増やすため、令和2年度は以下の2点を実施した。

#### 1) 大学院入学説明会

大学院への内部進学者を増加するため、令和2年6月30日に大学院入学説明会を実施した（参加者10名）。

#### 2) オープンキャンパスでの大学院のPR

令和2年度に3回実施されたオープンキャンパスでは大学院の相談ブースを設置し、学部受験生に対しても大学院の説明および広報活動を行なった。

以上の結果、本年度は大学院入学者9名のうち学内進学者が6名と増加した。今後は質の高い学生を確保するため、学部での公認心理師課程との連携などを密にしていくことが望まれる。

### 入学試験

入学者選抜は本学の定めるアドミッションポリシー（入学者受入方針）に基づき厳正に行っている。アドミッションポリシーについては、本学のホームページで公開し、さらに入学試験要項にも記載しているため十分に周知されている。

入学試験では志願者の特性を踏まえ、大学院一般入試と大学院社会人入試を設けている。いずれの入試制度においても、入学試験は専門科目、専門英語、口述試験から構成されている。専門科目及び専門英語の問題の作成に関しては、本学教員で組織される大学院入試作問委員によって作成され、大学院入試点検委員が点検を受ける。出題ミス等の問題がないように、入試問題には複数回（最大で4回）の校正と点検が行われている。口述試験に関しては、本学教員で構成された面接担当者が研究計画に基づき実施している。合否判定については、合否判定委員において公正に審議を行っている。

令和2年度に実施した入学試験では募集定員7名に対し計12名の志願者があった。志願者のうち本学出身者は6名であり、他大学出身者は6名であった。最終的な入学者数は9名であり、本学出身者は6名、他大学出身者は3名であった。コロナ感染の拡大の影響で志願者数の減少も懸念されたものの、入学定員充足率は100%を超えるものであり、前年度の入学定員充足率100%を上回るものであった。



## 5. 地域貢献

### 大野町幼児療育センターなないろにおける検査実習

大野町と本学は平成 22 年（2010 年）に包括的な連携・協力に関する協定を締結している。その事業の 1 つとして、大野町幼児療育センターの所長からの要請を受け、平成 28 年 4 月より大学院担当指導教員の助言・指導の下、大学院の 2 年生が、幼児療育センターなないろに通所する就学前の園児を対象に検査協力を行っている。

実習の概要は以下の通りである。

#### 1) 春季休業中の大学院での事前学習

- ・事業の趣旨、実習内容及び実習に係る倫理規定の周知
- ・依頼された検査に係る知識及び検査技能の習得

#### 2) なないろでの検査実習

- ・当該園児の検査の実施及び現地での実習指導者による助言・指導

#### 3) 大学院での実習

- ・結果の処理とアセスメントシートの作成
- ・2 名の指導教員による助言・指導

#### 4) 結果のフィードバック

- ・保護者及びセンター長に対する検査結果のフィードバック

#### 5) その他

・前年度末に当該園児の保護者を対象とした、検査の実施と活用に関する説明会の場で、実習指導者が検査目的、検査用具、検査者、結果の処理及びフィードバック等について話をしている。

- ・保護者の承諾が得られた検査対象園児は毎年、20 名程である。

### 大垣日本大学高等学校にスクールカウンセラー実習

本学は平成 26 年度より大垣日本大学高等学校の相談部と連携し、高校でのスクールカウンセラー実習を行っている。管理職の本事業に対する期待は大きく、校内の相談体制も整ってきており、院生も含むスクールカウンセラーによる相談活動はとても充実している。

スクールカウンセラー実習の概要は以下の通りである。

#### 1) 実習期間 年間 20 回（1 回 3～5 時間）

#### 2) 当日の実習の概要

##### ①受理会議の実施

- ・保護者の同意が得られた生徒の相談内容について相談部の教員と情報を共有する。
- ・受付、面接担当者及び相談室の割り振りを行った後、面接会場を整える。

##### ②相談

- ・実習指導者と同席または、単独で生徒及び保護者との面接を行う。
- ・面接担当者は、所定の用紙に面接の概要を記入する

### ③コンサルテーション

- ・来談した生徒及び保護者との面接の概要について報告する。
- ・実習生、実習指導者、教師と共に事例に関する今後の対処と留意事項を協議する。

### 3) 大学でのスーパービジョン

- ・面接実施後、大学にてグループスーパービジョンを行う。
- ・面接担当者は、面接の概要について報告する。
- ・実習指導者がケースの見立てや今後の対処について助言・指導する。

### 4) その他

- ・相談ケース数は毎回数件（多いときは8ケース以上）となる。
- ・生徒の要望による面接の継続ケースも多い。

## 岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”

例年、実習施設として協力をお願いしているエールぎふの実習は、令和2年度はコロナ感染対策により中止された。夏休みの2日間行われるサマーフェスティバルと月1回のベースで行われるふれあい活動に参加し、不登校児の支援を行うこととしているが、いずれも中止になったのは残念であった。次年度の活動に期待したい。

## 6. 心理臨床センター活動

心理臨床センターでは例年通り、大学院生の訓練を兼ねて、地域に住む学外者に対する相談活動を行った。令和2年度に行われた総面接回数は217回であり、令和元年度の205回を、わずかではあるが上回った。この理由として、日本臨床心理士会のサイト内にある「臨床心理士に出会うには」のページに、当センターの情報を掲載し、新規相談者の件数が増加したことが挙げられる。次年度にも積極的に広報活動を行っていく一方、当センターにおける支援の質を改善し、クライアントのニーズに応える支援ができるよう心掛けた。

また、令和2年度にも東海心理臨床研究への投稿論文を募集し、第16号には4本の論文が掲載されることが決定した。このうちの3本の筆頭著者が、令和2年度に修士課程に在学していた大学院生であり、論文中で、心理臨床センターで行われた相談活動の報告がなされている。いずれの論文でも、クライアントの問題が改善傾向にあることが報告されており、心理臨床センターで行われている大学院生の支援の質を担保する根拠となると考えられる。

## 7. コロナ対策

令和2年度前期当初にはリモート授業も行われたが、大学院の講義・実習においては受講生数も少ないため、3密を回避し、健康管理を促すことによって、後期はほぼ対面授業が可能であった。

心理臨床センター関係者やクライアントに感染者は出ておらず、ほぼ通常の相談活動が

行われた。実習施設として依頼していた中・高校、病院や福祉施設においては、感染症対策のため学外実習が制限された場合もあったが、何とか全院生について目標の実習時間が確保された。なお、日本臨床心理士資格認定協会よりコロナ対策の援助金助成事業資金援助を受け、十分な感染症対策を講じるとともに、希望者がある場合にはリモート相談ができる体制を整えることができた。

#### 8. 人間関係学研究科会議事録

研究科会は毎月1回第4週の水曜日に開催され、人間関係学研究科の教育・研究、心理臨床センターの運営等について審議している。令和2年度に開催された研究科会と議題については別紙資料を参照されたい。

#### 9. 各種調査・届出資料（宮本）

- (ア) 公認心理師科目確認申請書修正届
- (イ) 臨床心理士養成協議会コロナ対策回答
- (ウ) 私立学校振興・共済事業団学校法人基礎調査の教育情報調査
- (エ) 臨床心理士指定大学院組織等実態確認表
- (オ) 大学改革支援・学位授与機構学位授与の状況等に関する調査
- (カ) 文部科学省リカレント教育事業に関する調査
- (キ) 臨床心理士資格認定協会コロナ対策助成金報告書

#### 10. その他

##### OB会活動について

東海学院大学大学院OB会は、平成25年度修了辻氏が幹事となって、年2回程度研修会が開催されてきた。しかし、コロナ禍の中、全ての企画が実施できなかった。令和3年度は、オンラインでの実施も検討し、活動の再開を期待したい。

